

# 公的な集合住宅団地における遊休空間の活用による地域交流の促進に関する研究 —広島市基町地区の基町プロジェクトを事例に—

## Reuse of Vacant Spaces of Public Revenue Houses and The Method to Promote Community Communication

- The Motomachi project of Motomachi Neighborhood in Hiroshima -

○頼俊仰<sup>\*1</sup>, 佐々木誠<sup>\*2</sup>

LAI Chun yang <sup>1</sup>, SASAKI Makoto <sup>2</sup>

Due to the aging population and buildings, some spaces were getting vacant in the Motomachi public collective housing built from 1969 to 1979 in Hiroshima. The subject of this study is The Motomachi project.

The Research purpose of the study is to investigate the way how the project promotes the communication between communities by studying the reuse of vacant spaces in the neighborhood and the activities held by Motomachi project.

キーワード：遊休空間、活用、団地、コミュニティ

*Keywords: Unused space, Utilization, Housing complex, Community*

### 1. 研究背景と目的

日本の戦後復興期に建設された公的な集合住宅団地では、社会の少子高齢化問題や建物の老朽化の影響により、団地の居住者層が高齢化するとともに、団地の空き家や空き店舗が増加しつつある（こうして遊休化した空間を、以下「遊休空間」とする）。これらの問題により、住民の交流が減少し、団地の活力が低下する課題が生じる。

「広島市基町住宅地区」では、戦後の1960年代から70年代に住宅問題と民間の不良住宅を解消するために、地方自治体は戦後復興計画による広島城の城北エリアに1815戸の公的な木造住宅団地を建設した。その後、戦後に社会情勢が混乱したため、住宅地区の周辺に多くの民間不良住宅が建てられた。1956年に、広島市が基町住宅地区の木造住宅団地の建替え計画を実施し、1968年までに、計930戸の市営と県営の中層住宅団地を建設した。また、広島市が住宅地区の周辺への民間不良住宅を解消するために1969年から10年間をかけて、中層住宅団地の隣に計2,964戸の公的高層アパートを建設した(表1)。

現在、基町住宅地区は築40年を超え、建物の老朽化と団地の居住者の高齢化に伴う住民交流の希薄化や、空き店舗の増加に伴う商店街の衰退が課題となっている。2014年に基町住宅地区の人口構成では、高齢者が43.8%、外国人が19.5%(表1)を占め、居住者間は文化背景と言葉の異なることによる外国人の交流の難しさがあげられ、住宅地区の活力の改善を阻害すると思われる。そこで、広島市立大学が基町住宅地区における地域活力の低下を防ぎ、住民の交流を促進するために、交流の機能を取り入れた基町プロジェクトが始まった。

本研究では、基町住宅地区における基町プロジェクトの①運営、②大学が活用している遊休空間の現状、③活動内容について明らかにする。それらの結果より、大学による文化芸術活動や住民の交流に向けた活動が地域活力の低下を防ぎ、住民の交流を促進する可能性について検討する。

### 2. 研究の位置づけ

日本の公的な集合住宅団地における遊休空間を活用し

\*1 日本工業大学 協力研究員・修士

\*2 日本工業大学建築学部建築学科 教授・博士(工学)

\*1 Associate Fellow, Dep. Of Architecture, Nippon Institute of Technology

\*2 Professor, Dep. of Architecture, Nippon Institute of Technology, Dr. Eng.

たコミュニティ支援拠点への運営や取り組みに関する研究では、西野雄一郎<sup>1)</sup>らは、団地にある空き住戸へのNPO活動導入の可能性、運営実態を明らかにし、導入したNPOと団地や地域のコミュニティ支援の2つの側面から一体的に評価を行った。鈴木<sup>2)</sup>らは、稲毛海浜NT内の高洲・高浜団地における大学発のNPOが住民や地域の商店会と協働し、団地再生コミュニティビジネスを構築し実践する過程の研究により、団地再生における効果を明らかにした。公的な集合住宅団地における団地のコミュニティの推進に寄与するあり方に関する研究では、久保園<sup>3)</sup>は、明舞団地に居住している学生における入居動機、活動および生活状況など内容をアンケートとヒアリング調査を行い、地域活性化を目的とした公営住宅の学生居住の可能性を評価した。これらの研究によると、日本における住宅団地の空間活用や、団地の活性化に関する研究が多くみられる。また、住宅団地再生における地域と大学の連携に関する研究では、筆者は馬目ら<sup>4)</sup>と共に大学が住宅団地再生に向けた取り組み内容と大学の専門性との関係性について調査した。調査した事例に触れつつ、大学や学生が自主的に芸術文化活動の開催による地域住民の交流を促進することに関する事例はあまり見なかった。これにより、本研究は芸術活動を用いて地域交流を促進する基町プロジェクトを対象に選定し、取り組みの「運営面」「空間面」「活動面」を視点として、大学が公的な集合住宅団地における地域住民の交流の促進を論じるものであり、今後の公的な集合住宅団地における地域住民の交流を促進するにあたって空間活用のあり方に関する参考意義があると思われる。

### 3. 調査概要

#### 3.1 調査対象

本研究は、広島市立大学が主導している基町プロジェクトを対象として基町プロジェクト(以下基町PJ)の組織と運営、遊休空間の活用方式と活動内容について明らかにするために、以下を対象に調査を行った。

#### 3.2 調査方法

(1) 資料調査:プロジェクト2014年から2018年まで発行された情報誌「もとまちタイムズ」に記載された基町PJの活動内容と基町プロジェクトHPに公表された「基町プロジェクト・ドキュメント2014.4-2017.3」活動の記録資料をまとめて分析した。

(2) 観察調査:2019年5月17~18日にM98(組織)のスタッフを案内しつつ、基町PJの「施設M98」「施設

表1 基町住宅地区の概要と基町PJ各空間の位置<sup>注1)</sup>



\*外国人口は総人口の内数

表2 調査概要

調査の実施日程		2019年5月17~18日	
観察調査 (写真・文字記録)	「施設M98」「施設M98<make>」「施設M98<eat>」「施設M98<join>」「施設M98<display>」「中央商店会イベントスペース」「モトまち・アートウィンドウ」		
	対象者	内容	
ヒアリング調査	施設M98のスタッフ: Mさん Kさん	運営	活動の仕組み、PJの運営方式、人的なマネジメント、プロジェクトを支える資金
		空間	空間の活用経緯、空間の管理、利用実態
		活動	活動のコンテンツ、活動の対象者

M98<make>」「施設M98<eat>」「施設M98<join>」「施設M98<display>」「中央商店会イベントスペース」「モトまち・アートウィンドウ」の7つの空間の現地の観察調査と写真・文字の記録を実施した(表2)。

(3) ヒアリング調査:同時間にM98(組織)のスタッフの2人を対象に、基町PJの運営や計画実行、各活用した空間の管理・利用実態、基町PJが開催する芸術活動や住民の交流に向けた活動などの内容についてヒアリング調査を行った(表2)。

### 4. 基町プロジェクトの組織と運営

#### 4.1 組織の概要と役割分担

基町PJは、広島市立大学と広島市中区市役所が連携し、若者を中心に創造的な文化芸術活動や地域交流などのア

ート活動を行い、地域住民へのコミュニティデザインを作っている。2013年に広島市の「基町住宅地区活性化計画」に掲げている「基町アートロード、アートによる魅力づくり」の実現を目指す取り組みである。その実現のため、「学び場」「創造の場」「交流の場」の3つの場づくりに取り組んでいる。広島市立大学の社会連携センターは、基町PJの責任機関として、プロジェクトの実行方向の審査や経費の管理を行っている。芸術学部は、基町PJの事業企画やディレクターなどの役割を担当している。さらに、芸術学部が団地で施設 M98 と同じ「M98」の名称を使い組織(以下 M98(組織))を設置し、7空間の管理や基町PJの事業計画の実施者を担当する(図1)。

#### 4.2 スタッフの構成

基町PJの運営の仕組み人数では、大学の社会連携センター2人、芸術学部長1人、ディレクター(芸術学部の教員)1人とM98(組織)のスタッフ2人が構成された。M98(組織)のスタッフは、広島市立大学の非常勤特任教員(契約は一年ごとの更新)を雇用し、基町住宅地区で活用している各空間の管理や空間での活動利用の受付事務などの職を担い働いている。ボランティアの募集はしていないが、大学の授業や実習による学生の手伝いや、大学からの声かけによって学生の自主参加などがある。

#### 4.3 運営実態

##### (1) 運営内容

M98(組織)は、基町PJが住宅地区で活用している7つ空間の責任者として、全ての活動宣伝、空間管理、基町PJの活動企画などの業務を行っている。さらに、地区住民の信頼関係を深くするために、スタッフが基町住宅地区の町内活動への参加や協力をすることもある。また、基町PJ(市立大学)が住宅地区の住民への交渉や、住民が基町PJにフィードバックをしたい時に、M98(組織)を通じて、両者の交流の架け橋の職を担う(図1)。

##### (2) 各空間の開放時間

各空間の開放時間では、施設 M98 が毎週の木曜から土曜日の10:00~17:00まで営業している。施設 M98<make>と施設 M98<join>は活動がある時にオープンする。中央商店会イベントスペース、施設 M98<eat>と施設 M98<display>は中央商店会の営業時間と同じく毎日の9:00~18:00までオープンする。モトマチ・アートウィンドウは常時24時間営業である(表3)。

##### (3) 各空間の貸出

M98(組織)は、7空間の鍵管理を行い、市立大の教員や学生は空間の無料利用ができ、使用期間に発生した光電

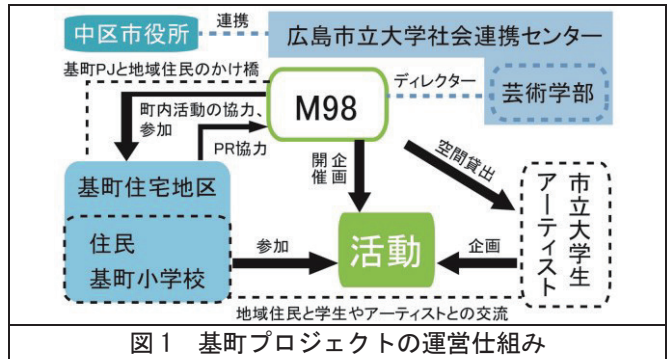


図1 基町プロジェクトの運営仕組み

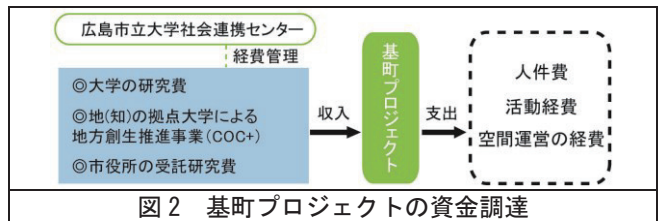


図2 基町プロジェクトの資金調達

熱代と水道代は基町PJが負担する。また、外部のアーティストはギャラリーの利用希望がある場合にM98(組織)と相談し、空間の使用計画と申請書類を提出し、市立大学の社会連携センターの審査による空間の無償貸与ができる。7つの空間は営利目的の使用を禁止している。

#### (4) 宣伝方式

基町PJは、一般者に対しては、主に基町PJのホームページやFacebookでの宣伝利用を行い、大学のホームページや活動の連携者への協力宣伝もある。地域住民に対しては、月一回の町内会が集まっている会議に会長への宣伝協力や団地の掲示板を用いて宣伝を行っていた。さらに、2014年から発行している基町PJの情報誌「もともちタイムズ」を通して、住民に対する基町プロジェクトの活動宣伝、成果報告および町内活動などを用いて宣伝を行った。

#### 4.4 資金調達

基町PJを支える資金では、大学の研究費、地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)からの支援金と広島市中区市役所の受託研究費の3つの経費を構成し、年間予算は毎年更新を行うため、持続面では不安定の可能性がある。基町PJ全ての経費は大学の社会連携センターを管理し、プロジェクトの活動内容によって、M98(組織)が大学の社会連携センターに実行経費を申請する(図2)。

支出費用では、スタッフの人件費、施設の水道代、光電熱費、施設の維持費と活動開催のための必要経費(活動や展示の準備などに発生したお金)を構成する(図2)。

#### 5. リノベーションの経緯と空間の活用

### 5.1 各空間のリノベーションの経緯

2014 年から広島市立大学が基町住宅地区における住民の交流活動や住宅地区において活力創出の促進に向けてアート活動や事業を実行している。そのため、大学は広島中区市役所を協議し、非営利目的に市営団地の空き店舗を無償で借り受けた。2014 年 1 月に広島市立大学芸術学部が市営団地の空き店舗を改修し、同年の 5 月に基町 PJ の事業を推進するスタートの場所、施設 M98 としてオープンした。その後、基町 PJ が団地内の空き店舗を活用し、年々に新たな活動空間を作ってきた。2015 年 12 月から基町 PJ が基町ショッピングセンター南側のショーウィンドウを借りて、モトマチ・アートウィンドウとして活用した。2016 年 4 月に基町中央商店会内の 4 ヶ所の空き店舗を借りて、中央商店会イベントスペースとして活用した。同年の 4 月に中央商店会内で空き店舗になったうどん屋およびファッションルームの 2 ヶ所の空間を借り受け、活動空間として施設 M98<eat>と施設 M98<make>がオープンされた。2017 年 4 月に分散店舗である 208 号を活用し、ギャラリー空間の施設 M98<join>としてオープンした。2018 年 4 月に施設 M98<make>が施設 M98 の隣の空き店舗に転移し、同月に元の施設 M98<make>空間を改修し、基町 PJ の成果展示スペースとして施設 M98<display>がオープンされた。

2018 年までに基町 PJ を活用している空間は「施設 M98」「モトマチ・アートウィンドウ」「中央商店会イベントスペース」「施設 M98<eat>」「施設 M98<make>」「施設 M98<join>」「施設 M98<display>」の 7 つの空間である。

### 5.2 空間のリノベーション

7 つの空間のリノベーションでは、広島市立大学の教員と学生と一緒に空き店舗の片付け、床のカーペット剥がし、ガラス面の掃除、仮設壁作りや壁面の塗装などの作業を行ってきた（写真 1, 2, 3, 4）。空間の内装工事と電気設備工事や配管工事は専門技術が必要なため専門技術者に依頼された。また、2019 年 4 月に基町プロジェクトが実験的ポップアップショップ「Unité」を作るために、施設 M98 の近くにある空き店舗の活用計画を決めた。その後、この情報を知った九州大学建築専門の 1 人の学生が M98（組織）に連絡し、2019 年 5 月 11 日に施設 M98 でスタッフと一緒に「Unité」の空間デザインのアイデア出しに参加した。

### 5.3 各空間の利用状況

(1) 施設 M98 は、基町 PJ の主な事業を遂行する場および住民との交流の場などの機能を持つ。空間は二つの



テーブルを設置し、利用者は机の周りに座り、プロジェクトの打ち合わせや意見交換のようなトークイベントに利用する（表 4-(4)）。さらに、活動の開催期間内に活動を順調に進めるために、施設 M98 は活動の支援の場所になった。また、施設 M98 は地域住民に向けて基町 PJ の窓口のような機能もある（表 3-①）。

(2) モトマチ・アートウィンドウは、学生やアーティストの写真展や基町 PJ の成果展示に利用する（表 3-②）（表 4-(4)）。

(3) 中央商店会イベントスペースは、4 店舗を組み合わせた空間であり、空間で移動可能な仮設壁の設置とテーブルの利用を通して、写真や作品の展示ができる。また、ものづくり系イベントやワークショップの利用も行っている（表 3-③）（表 4-(4)）。

(4) 施設 M98<eat>の空間は、空き店舗のキッチンを軽くリノベーションし、学生と地域住民で共同参加の料理教室や食事会の食系イベントを行っている。活動の際、施設 M98<eat>前の中央商店会イベントスペースの空間を合わせて利用することができる（表 3-④）（表 4-(4)）。

(5) 施設 M98<make>の空間は、収納棚や作業台を設置し、基町 PJ の活動道具の置き場や活動の事前準備作業や道具作りの作業スペースとなり、基町 PJ の倉庫を利用することもある（表 3-⑤）。

(6) 施設 M98<join>の空間は、水道、トイレ、エアコンを設置し、天井にライティングレールを設置し、基町 PJ のギャラリー空間として、芸術学部の学生や外のアーティストの作品展示会が行われている（表 4-(4)）。また、小さいトークイベントや交流パーティーなどの利用もできる（表 3-⑥）。

(7) 施設 M98<display>の空間は、空き店舗の商品展示棚を活用し、展示できる機能改装工事を行い、その棚を利用し、基町住宅地区や基町 PJ に関する紹介とプロジェクトの事業成果の展示場になった（表 3-⑦）。

表3 基町プロジェクトの各空間の利用<sup>注3)</sup>

①		空間利用の様子			PR方式	大学HP、基町PJのFB、チラシ、団地掲示板、もともちタイムズ、町内会の会議に会長から、活動の連携者から
					構造	RC造
施設名称	施設 M98	建物所有者	広島市中区市役所	サービス時間	10:00-17:00 木曜から土曜まで(不定休)	
設立年	2014年5月	活用類型	空き店舗の活用	基町PJの運営 仕組み人数	社会連携センター2人、芸術学部部長1人、ディレクター1人、M98(組織)のスタッフ2人	
②		空間利用の様子			賃貸	市から営業目的外として無償使用
					利用条件	スタッフと相談すれば、無償使用/非営利目的
施設名称	モトマチ・アートウィンドウ	建物所有者	広島市中区市役所	管理者	M98(組織)	
設立年	2015年12月	活用類型	ショーウィンドウの活用	サービス時間	24時間	
③		空間利用の様子			構造	RC造
					賃貸	市から営業目的外として無償使用
施設名称	中央商店会イベントスペース	建物所有者	広島市中区市役所	管理者	M98(組織)	
設立年	2016年3月	活用類型	空き店舗の活用	利用条件	スタッフと相談すれば、無償使用/非営利目的	
④		空間利用の様子			構造	RC造
					賃貸	市から営業目的外として無償使用
施設名称	施設 M98<eat>	建物所有者	広島市中区市役所	管理者	M98(組織)	
設立年	2016年4月	活用類型	空き店舗の活用	利用条件	スタッフと相談すれば、無償使用/非営利目的	
⑤		空間利用の様子			構造	RC造
					賃貸	市から目的外として無償使用
施設名称	施設 M98<make>	建物所有者	広島市中区市役所	管理者	M98(組織)	
設立年	2016年4月	活用類型	空き店舗活用	利用条件	スタッフと相談すれば、無償使用/非営利目的	
⑥		空間利用の様子			構造	RC造
					賃貸	市から営業目的外として無償使用
施設名称	施設 M98<join>	建物所有者	広島市中区市役所	管理者	M98(組織)	
設立年	2017年4月	活用類型	空き店舗の活用	利用条件	スタッフと相談すれば、無償使用/非営利目的	
⑦		空間利用の様子			構造	RC造
					賃貸	市から営業目的外として無償使用
施設名称	施設 M98<display>	建物所有者	広島市中区市役所	管理者	M98(組織)	
設立年	2018年4月	活用類型	空き店舗の活用	利用条件	スタッフと相談すれば、無償使用/非営利目的	
				サービス時間	中央商店会のOPEN時間により(9:00~18:00)	

## 6. 基町プロジェクトの活動

2014年4月から2018年12月までに基町PJが基町住宅地区において151回(一部の活動の開催数を含まない)の活動を実施した(表4)。

### 6.1 活動の内容

活動を「①交流や意見交換会」「②つくり系」「③アート系」「④食系」「⑤ワークショップ」「⑥その他」の6つに分類した。「①交流や意見交換会」では、基町PJが主催する様々なトークイベントが行われた。例えば、地域の方や基町をよく知る専門家を先生に担当し、基町住民、地域住民、大学生と一緒に話すような意見交流が行われる。あるいは、基町PJや大学が中心になるプレゼンテーションや打ち合わせなどの活動も行われている。「②つくり系」では、市立大学が企画した基町のマップ制作、模型制作や、基町小学校の学生たちと一緒にものづくり、基町 Re : デザインなどの活動が行われた。「③アート系」では、広島市立大の学生や基町PJが主催する写真展および、活動成果や模型の展示、市立大学の学生作品展示会である。あるいは、外部のアーティストと基町PJと共催したアート活動が行われた。「④食系」では、広島市立大学と修道大学の学生を中心に企画した「もとまちカフェ」と、基町PJのグローバルキッチンおよび基町地域包括支援センターが主催し、月1回の高齢者と一緒に食事する活動「金曜日の食事会」が行われた。基町PJがグローバルキッチンによる、市立大学や他の大学の教員の指導から大学生と一緒に料理を作ったり、市立大学の留学生が異国料理を作ったりする、基町の住民と一緒に食の交流を行った。「⑤ワークショップ」では、基町PJが基町にアトリエを作るための意見交換や市立大学生を主導に基町小学生に向けてワークショップが行われた。「⑥その他」では、基町PJと文化庁を共催したシンポジウムや、M98(組織)のスタッフが基町住宅地区の地域行事の写真記録や町内活動を協力参加していくことである(表4-(1))。

### 6.2 活動の特徴

活動の開催形態を「主催」「共催」「協力」「連携」「貸出」の5つに分類した(表4-(2))。基町PJが主催する活動が一番多く、「①交流や意見交換会」、「②つくり系」「③アート系」、「④食系」、「⑤ワークショップ」などの活動の主な開催形態は「主催」、⑤「その他」の開催形態はM98(組織)のスタッフが町内活動の協力である。実施回数は、「主催」が66%を占め最も多く、二番目に多かった「協力」が26%であった(表4-(2))。

### 6.3 活動の参加者

活動の参加者は、活動の内容により、参加の対象が違う。「①交流や意見交換会」のMトークやオープンミーティング、土曜日の先生などの活動は学生と基町住宅地区住民が交流を深めるための企画を趣旨とし、主な参加者は学生と地区住民である。「②つくり系」では、市立大学学生が主に企画し、基町住宅地区の子供や基町小学校の学生に向けていく活動ため、主な参加者は基町住宅地区の住民と小学校関係者になった。「④食系」では、基町PJが食の活動を通じて、基町の住民と大学の交流機会を作るため、主な参加者は基町の住民と大学生・教員になった(表4-(5))。

### 6.4 活動による基町住宅地区住民の交流促進

基町PJは、さまざまな活動を通じて、大学と基町住宅地区の住民の交流機会を作った。例えば、Mトーク、オープンミーティングと土曜日の先生(総計34回)を通じて、地域住民と専門家や学生の交流が行われ、学生が基町住宅地区についての知識が深く理解できるようになった。現在、月1回の「土曜日の先生」は大学と地域の定期的な交流活動になった(写真5)。「②つくり系」や「③アート系」を通じて、基町住宅地区の住民や小学校の子供たちがアートやデザインに親しむきっかけが増えている(写真6)。さらに、基町PJが2015年から4年間連続開催している「昔の写真展」を通じて、地域住民が写真を提供する過程や写真を見た後に思い出した昔の基町の話をする事により、住民たちのコミュニケーションが増え、学生も昔の話から基町の歴史の理解が深まり、学生の地域への関心感が強くなると思われる(写真7)。また、「④食系」のグローバルキッチンを通じて、学生と基町の住民のコミュニケーションが増え、留学生が異国料理を作る事により、地域の方との食の国際交流も生まれたと思われる(写真8)。

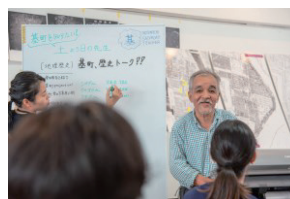


写真5 土曜日の先生<sup>注4)</sup>



写真6 子供向けアート活動<sup>注4)</sup>



写真7 昔の写真展<sup>注4)</sup>



写真8 グローバルキッチン<sup>注4)</sup>

表4 基町プロジェクトの活動

(1) 活動	(2) 開催形態					開催者	(3) 開催時間	(4) 利用空間						(5) 参加者							
	主催	共催	協力	連携	貸出			施設 M98	施設 M98eat	施設 M98make	施設 M98join	イベントスペース 中央商店街 イノセントスペース	アートウィンドウ モトマチ・ アートウィンドウ	基町住宅地区	基町住宅地区外	基町住宅地区住民	大学生・教員	一般市民	役所職員	小学校関係者	
① 交流や意見交換会	Mトーク	14				基町プロジェクト	2014/4/19, 26, 5/17, 22, 23, 29, 6/19, 21, 8/3, 5, 12, 2015/12/20, 2016/3/6, 6/25	9				1		2	2	◎	◎	○	○	○	
	基町歴史トーク	4				基町プロジェクト	2015/8/1, 11, 2016/8/11, 2017/8/19	3				1				◎	◎	○			
	オープンミーティング	11				基町プロジェクト	2017/4/15, 5/20, 6/17, 7/15, 8/19, 9/16, 10/21, 11/18, 12/16, 2018/2/17, 3/17	11								◎	◎				
	土曜日の先生	9				基町プロジェクト	2018/4/21, 5/19, 6/18, 7/21, 8/18, 9/15, 10/21, 11/17, 12/15	8					1			◎	◎				
	プレゼンテーション	v	v			市立大学・修道大学	2014/10~	v									◎				
	意見交換会/年末報告会	8				基町プロジェクト	2014/11/17, 28, 12/10, 2015/12/18, 20, 2016/12/9, 17, 2017/12/16	8								◎	◎		○		
	基町 JP の打ち上げ	v					2015/10/21-2016/1/9	v									○				
② つくり系	マップ・模型の制作	v			v	広島大学と地域住民 基町プロジェクト	2014/5-2015/3, 2014/9/2-16, 2015/6/1-8/4, 2016/8/4-5, 8/21-2017/2/24	v		v			v			○	◎		○	○	
	クリスマスデコレーション	1				基町プロジェクト	2015/12/6					1				○	○			○	
	ものづくり	2			1	基町プロジェクト/ 基町小学校	2015/6/15, 2016/2/21-3/17, 5/25	2					2			○	◎			◎	
	基町 Re : デザイン	v				基町プロジェクト	2017/6/15-9/16	v									◎				
③ アート系	写真展	4			1	基町プロジェクト/ 地域の写真家/市立 大学留学生	2015/8/1-14, 2016/2/4-29, 5/15-6/30, 2018/5, 8/5-					1	4								
	昔の写真展	4				基町プロジェクト	2015/8/1-14, 2016/8/1-31, 2017/8/1-31, 2018/8/5-31					4									
	模型展示、成果展示	5				基町プロジェクト	2014/10/18-11/2, 14-25, 12/14-2015/1/30, 2016/3/1-31, 2017/9/14-10/4						4								
	市立大学生の作品展	10				基町プロジェクト	2017/9/12-23, 9/28-10/7, 11/2-11, 11/30-12/9, 2018/5/3-12, 8/16-25, 9/6-15, 9/20-29, 10/11-20, 11/1-10				10										
	映画上映会	1				基町プロジェクト	2014/8/24						1			○	○		○		
	その他のアート系活動	1			2	基町プロジェクト/ NPO 法人/劇作家	2014/7/26, 8/1, 6	1					2			◎	◎	○			
④ 食系	もとまちカフェ	6				市立大学・修道大学	2015/8/5-6, 2016/11/12, 2017/6/19-26, 10/1, 11/25, 12/24						2	4							
	グローバルキッチンPJ	20				基町プロジェクト/ 安田女子大学/広島 市立大学/基町地区 在住の外人	2016/8/27, 9/30, 10/22, 11/19, 12/17, 2017/3/24, 4/29, 6/24, 7/9, 8/24, 10/1, 11/12, 26, 12/22 9/23-10/28(4回)、 2018/7/20, 9/21		20		20				◎	◎	○				
	金曜日の食事会				v	地域包括支援センタ ー	2016/4月から月1回(金曜 )	v		v						◎	○				
⑤ ワークショップ	5		2		基町プロジェクト/ アーティスト	2014/8/23, 2016/3/12, 19 2017/3/5, 8/24-25, 2018/12/1, 12/22-23	3				2				◎	◎	○	○	○		
⑥ その他	M98 拠点のオープン式	1				基町プロジェクト	2014/5/20	1								◎	◎		○		
	シンポジウム	1				基町プロジェクト/ 文化庁	2016/11/12						1			○	◎	○			
	基町住宅地区の町内活動				38	町内会や自治会など	2014/8/10, 9/15, 10/9, 2015/5/31, 6/7, 28, 7/4, 8/9, 9/21, 10/4, 18, 11/20, 23, 12/12, 2016/1/28, 2/23, 27, 3/18, 6/1, 7/2, 13, 8/7, 9/19, 10/26, 29, 12/10, 2017/3/7, 6/7, 7/1, 12, 8/13, 9/18, 10/11, 11/15, 8, 2018/9/17, 10/21, 11/3					38									
総計(回)*1	100 66%	7 5%	40 26%	3 2%	1 1%	151		46	20	v	10	30	5	46	15						

凡例 V : 開催(利用)回数は統計せず、表の中の数字は回数、◎ : 主な参加者、○ : 参加者、\*1 : 項目(2)と(4)の総計数の中で、Vの回数は含まない。

## 7. 結論

基町 PJ は、若者を中心に文化芸術活動や住民の交流に向けた活動を実施し、基町住宅地区住民の交流促進の役割を果たした。筆者は、基町 PJ の①運営、②大学が活用している遊休空間の現状、③活動内容について以下にまとめ、大学による文化芸術活動や住民の交流に向けた活動が地域活力の低下を防ぎ、住民の交流を促進する可能性について検討し、本研究の知見として結論とする。

### 7.1 基町プロジェクトの組織と運営

基町 PJ では、広島市立大学が基町住宅地区内の空き店舗を利用し、若者を中心に創造的な文化芸術活動による基町住宅地区の地域交流を促進する事業を推進した。大学の2人の非常勤特任教員が基町 PJ の主な事業運営を担い、団地で常駐させ、プロジェクトの業務を行っている。資金面においては、市の受託研究費と大学の研究費が主な収入となった。しかし、年予算は毎年更新を行うため、長期的な運営を考えると資金の安定化が重要な課題である。なお、市による店舗の無償貸出により、基町 PJ の運営コストは低く抑えられている。

### 7.2 空間の活用

広島市立大学の教員と学生が住宅地区の空き店舗を改修し、基町 PJ の初の実施場所を整備した。その後、同様の教員と学生が他の6カ所の空間において若者らが活動しやすい環境を整備し、外部のアーティストや大学生に空間の無償利用を通じて、若者が集まり交流する場所の形成に寄与した。また、住民と学生の利用を通じて、空き店舗は住民と学生が交流する場所になり、空間の新たな役割が生まれた。

### 7.3 基町プロジェクトの活動

活動は、主催、共催、協力、連携、貸出の5つに分類し、そのうち、基町 PJ の主催により、7空間において5種類の活動を実施した。これらの活動を通じて、大学と地域住民の交流が行われた。学生自らが企画したアート活動により、住民にアートに親しむことの支援や地域の活力低下を防ぐような地域貢献活動が実現した。基町 PJ は団地住民に招き、活動のゲストにすることや、スタッフは町内活動を協力することさらに、町内会長への宣伝協力によって、団地住民に基町 PJ の活動を受け止められ易くなった。住民に対しては、基町 PJ の活動の参加や空間の利用によって、住民の交流機会を増やしていた。しかし、基町 PJ が住民組織と連携した活動は見なかった。将来、住民組織とどのように連携することによって、大学と住民の絆を更に深く効果が可能と考えられる。

### 7.4 地域住民の交流促進の可能性

基町 PJ が住民の交流を促進するために活動により、大学と住民や地域の方と話し合う機会となった。特に、①交流や意見交換会を通して、スタッフ、大学生と住民は異なる視点から基町を語ることによって、三者との繋がりが広がっていき、④食系活動による学生と住民が食知識を学びつつ、両者の相互交流も生まれる。これにより、団地を超えた地域の多世代交流の促進と商店街の活力を向上する可能性に対する一定の効果がある。

また、学生が企画する②つくり系、③アート系、⑤ワークショップを通じて、若者が基町住宅地区に来る機会を増やすことになり、住宅地区の活力を少しずつ生み出した。

### 7.5 まとめ

以上のように、基町 PJ が大学による文化芸術活動や住民の交流に向けた活動を通じて、住民の交流を促進する一定の効果が見られた。大学が専門性を活かし、基町住宅地区のシャッター商店街に賑わいと活気が生まれ、地域活力の低下を防いだ。

一方、課題は持続性である。学生がどのように持続的に活動に参加し、いずれ卒業する学生が後輩にいかに関わり続けるかが今後の重要な課題であると考えられる。

### 謝辞

調査にご協力くださった広島市立大学芸術学部の中村圭先生、観察調査とヒアリング調査にご協力頂いた M98 のスタッフ片島らん氏、増田純氏に心よりお礼申し上げます。

### 注

注 1) 人口構成の統計資料は基町 PJ の公表資料：基町プロジェクトの基本コンセプトを参考に整理した。

URL: <http://www.motomachiproject.net/aboutproject>

注 2) 写真 1, 2, 3, 4: 基町 PJ の FB から引用した。

注 3) 表 3-①⑤の右写真、表 3-③④⑥の中、右写真: 基町 PJ の FB から引用した。

注 4) 写真 5, 6, 7, 8: 基町 PJ のホームページから引用した。

URL: <http://www.motomachiproject.net/documents>

### 参考文献

- 1) 西野雄一郎ほか「公営住宅の空き住戸を利用した NPO 活動実態その1～その3」、日本建築学会大会学術講演梗概集、2013,8、2015,9
- 2) 鈴木雅之ほか「NPO と住民お協働による団地再生のためのリフォーム・高齢者支援コミュニティビジネス」、日本建築学会技術報告集、No.23、385-388、2006,6
- 3) 久保園洋一「地域活性化を目的とした公営住宅の学生居住に関する研究—考察-兵庫県明舞団地の事例から-」、日本建築学会計画系論文集 Vol.81 No.722、983-990、2016,4
- 4) 馬目ほか「住宅団地再生における地域と大学の連携に関する研究 その1～3」、日本建築学会大会学術講演梗概集、2018,9